

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成22年8月12日(2010.8.12)

【公開番号】特開2005-7166(P2005-7166A)

【公開日】平成17年1月13日(2005.1.13)

【年通号数】公開・登録公報2005-002

【出願番号】特願2004-159722(P2004-159722)

【国際特許分類】

A 6 1 B 5/06 (2006.01)

G 0 1 V 3/10 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 5/06

G 0 1 V 3/10 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成22年6月28日(2010.6.28)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 6 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 6 9】

上の表の右側部分の「比」を参照して、本発明の好適な実施形態に従った2つの高調波の単純な比を用いた干渉の補正の計算例を説明する。例えば、プローブ20が受信した信号において、 f_0 の相対振幅が4.1、 $3f_0$ の相対振幅が1.0、 $5f_0$ の相対振幅が0.5と仮定する。従って、 $3f_0$ に対する $5f_0$ の比は0.5である。この比を表に反映されている保存された値に対して比較して、制御ユニット50が、この場合は、要素40が要素#1と同じタイプであることを決定する。受信した信号に対する要素40の歪みの影響を決定するために、 $3f_0$ (1.0)の値を $3f_0/f_0$ の保存された比(10.0)で除すと、0.1になる。この結果を f_0 (4.1)の測定振幅から減じると、要素#1による歪みのない補正振幅4.0になる。この振幅が、プローブ20の正確な位置を計算するための入力として用いられる。